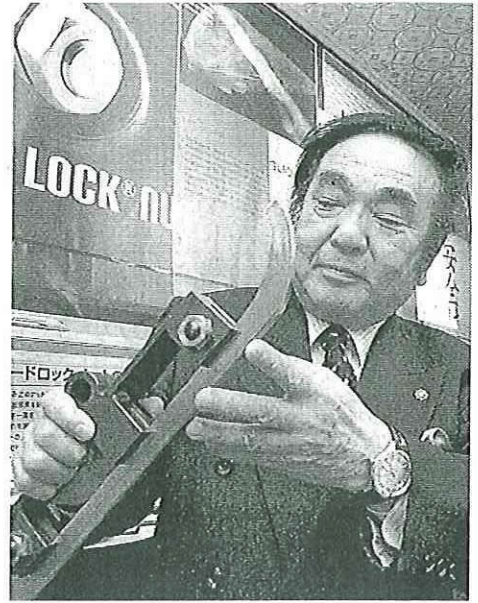


# 町工場から五輪へ



「絶対に緩まないナットがある」。昨年8月、こんなうわさを耳にしたボブスレー日本代表チームの石井和男監督は大阪府東大阪市のねじメーカー「ハードロック工業」に電話を入れた。競技に使うそののシャーシ部分と、氷面と接する4枚のランナーと呼ばれる部分をつなぐボルトの固定に、同社の「ハードロックナット」が使えないか、という依頼だった。

## 1 ボブスレーのナット



ハードロックナットで固定したランナーを手に「金メダルを」と語る若林社長＝大阪府東大阪市の渡部圭介撮影

# メダル取り 緩みなし

ランナーと氷面を密着させて速さを生み出す。ところが遊びがあることで、ナットは激しい衝撃にさ

らされるため約1分の滑走の間でも緩んでしまう。遊びの幅が大きくなり過ぎると、その進行方向がぶれてスピー

ドをロスする。100分の1秒を争う「氷上のF1」にとっては、わずかなナットの緩みも致命傷だ。同社にとってスポーツ分野を手がけるのは初めてだったが、若林克彦社長は石井監督に「うまくいきますよ」と即答した。

ハードロックナットは2つ一組。片方のナットの突起がもう一方のナットとボルトの間に入り込みぎつく締め上げ

始以来、緩んだという話は聞いたことがない」と胸をはる。鉄道のレール固定や宇宙ロケットの発射台にも使われる信頼性を誇るだけに、同社は難なく氷の凹凸の衝撃をクリア。依頼後1カ月で専用ナットを完成させた。日本代表チームはその後の練習でベストタイムを1秒以上更新させたという。

体重や体格が物を言い、欧米勢の独壇場となっているボブスレーの世界に、大阪の中小企業の発明力を武器に挑む日本代表。「金メダル、狙ってください」と石井監督にエールを送ったという若林社長は「世界を驚かせて、他の国からうらやましがられてくれれば」と話した。

ボブスレー 流線形のそりで全長1速は130以上以上に達し、「氷上のF1レーキ強の蛇行するコースを滑走し、4回ス」とも呼ばれる。男子は2人乗りと4人乗りの合計タイムで競う。1924年の第1回冬、女子は2人乗りの計3種目があり、バンクーバー五輪から採用されている伝統競技。最高時クーパー五輪で日本は全種目に出場する。

12日（日本時間13日）開幕するバンクーバー五輪。日本代表選手の活躍を陰で支える関西の中小企業の技術力や工夫などを紹介する。